

西砂地域の雨水対策を

計画に基づき整備を行う
門倉正子(公明党)



問 現在、立川市下水総合計画に基づき雨水管の整備が進められていますが、分流式が多摩川上流処理区の雨水管整備率は25%で、平成20年の23%からあまり進んでいません。西砂地域は同処理区の残堀川流域にあり、この地域の整備が進まない理由を伺います。また特に七中北交差点付近のコンビ二前の道路は冠水がひどく、歩行者等の通行が妨げられ、整備が求められています。今後の事業計画はどうなっているのでしょうか。

答 雨水管の整備が進まない要因として、整備区域の道路幅員が狭いことや、道路に水道管、汚水管、ガス管等既存埋設管が輻輳していること等から、施工が困難になっていることが挙げられます。また、七中北交差点付近については、西砂川雨水第10幹線及び西砂川第1排水区雨水枝線埋設工事を平成28年12月完了予定で行います。道路排水管と本工事により埋設される管きよが接続されることから、道路冠水は改善されると考えます。

外国人観光客に向け知的観光事業推進を

マップの充実など必要と考える
中山 ひと美(たちかわ自民党・安進会)



問 サンサンロードはイベント広場として活用され、たくさんの方が開催されていますが、イベントの行事が収納する倉庫が分散されていて不便です。近隣事業者に借りるなどして確保できないでしょうか。また、外国人観光客の増加を見据え、ファールアートや国の研究所、昭和記念公園、普濟寺の国宝などをマップで紹介し、散策を楽しめるような知的観光事業の推進を提案します。そのためにも、観光案内所の設置を求めます。

答 イベント開催時の備品倉庫は、サンサンロード南側の階段下や子ども未来センター等に分散しており、使い勝手が悪いと認識しています。倉庫の借用等については、周辺地域の協議会等でご提案があればお受けしたい。ファールアートを含めた観光資源は、外国人観光客にも魅力的と考えており、今後は外国語に対応した観光マップの充実なども必要だと考えます。観光案内所については、立川駅北側西地区の再開発ビル内に設置予定です。

福祉コンシェルジュの設置を

国の動向を注視したい
山本 みちよ(公明党)



問 福祉コンシェルジュ(総合案内)は、申請手続などで戸惑っている高齢者や障がい者の方から相談内容を聞き取り、適切な福祉制度の案内や相談に応じることなどが役割です。福祉に関する相談内容は、介護や障がい、生活保護や虐待等、複雑に絡み合うケースもあり、総合的に対応できる窓口の設置が求められています。本市でも福祉コンシェルジュの設置を進めることはできないものなのでしょうか。見解を伺います。

答 庁舎1階ではフロアマネージャーを配置し、窓口へのご案内など対応しています。福祉コンシェルジュの設置については、その相談内容が多岐にわたり、プライバシーの問題や、その相談対応に一定の時間がかかることが想定される等の課題もありますが、ここで国が、福祉サービスの相談を一括して受け付ける窓口を自治体に広めるモデル事業を、来年度から始める考えを示したので、今後、国の動向や先進事例等を注視していきたい。

立川市における地方創生とは

創業を支援し、雇用創出等に取り組む
谷山きょう子(立川・生活者ネットワーク)



問 市では、25歳から39歳までの若い世代の転出超過という現状があります。子育てしやすいまちづくりという観点からも、職住近接、雇用の創出に力を注ぐ必要があると考えます。持続可能なまちづくりには、体力のある企業の育成といった長期的な展望で、地域の特性を生かした地元産業の地産地消、地域内経済の活性化が必要で、地元産業を育成する具体的な支援策としては、どのようなものがあるのでしょうか。

答 商工会議所や市内金融機関等5団体で組織するたちかわ創業支援プロジェクト等があります。創業を支援することで雇用創出や地域の活性化などに取り組んでいます。また、既存の中小事業者に対しては、本市独自の融資制度を充実させています。また、商工会議所が実施する経営改善普及事業への支援等にも取り組んでいます。立川市版総合戦略では、地域に根差した魅力ある仕事を創出する取り組みを推進します。



中央図書館



健康会館 (がん検診会場のひとつ)



サンサンロード

「デジタル化資料送信サービス」の導入を

導入に向け検討と準備を行う
大沢 純一(公明党)



問 本市に、国立国会図書館との連携によるデジタル化資料送信サービスを、早急に導入すべきと考えますが、いかがでしょうか。これは国会図書館と全国の図書館をインターネット回線をつなぎ、国会図書館がデジタル化した資料を他の図書館で閲覧・複写できるサービスです。平成26年1月から全国で行われており、都立多摩図書館でも環境を整備していますが、同館は平成28年末で移転予定であり、市内では利用できなくなります。

答 国立国会図書館が実施している図書館向けデジタル化資料送信サービスについては、大変有効なものだと認識しています。しかし、現在立川市図書館のインターネット端末機器環境は、国会図書館が提示している要件を満たしていません。国会図書館からの承認を得るためには、機器等の環境整備とともに、運用の見直しを行う必要があるため、サービス導入に向けて、今後検討と準備を行っていきます。

がん検診率の向上について

環境整備や勧奨・啓発を行う
松本まき(民主・市民フォーラム)



問 がん対策に関しては、早期発見のため検診率の向上が必要ですが、胃がんや肺がんなどの特定のがんに関して、市の検診率は三多摩地域の平均値に比べ、低位で推移しています。検診スケジュールの見直しなどについて、かねてから指摘されていますが、検診しやすい環境整備は極めて重要です。国では、検診率向上に取り組む自治体に補助金を出す方針もあるようですが、市の検診率向上に向けた取り組みを伺います。

答 昨年度は胃・大腸・肺がんの集団検診を11カ所の公共施設で37日、また、大腸がん、子宮頸がん、乳がん検診は、無料クーポン券と検診手帳により特定年齢対象者へ個別勧奨を実施しました。新規に、子宮頸がん検診は21歳~40歳、乳がん検診は41歳~60歳で、市の当該検診の受診歴があり前年度未受診の方に、個別勧奨を行いました。無料クーポン券や受診勧奨等には国や都の補助を活用し、環境整備や勧奨・啓発で受診率向上を図ります。

富士見町地域まちづくりは

計画に基づき対応していく
松本あきひろ(たちかわ自民党・安進会)



問 市道1級2号線・富士見高架は、昭和44年にかげられ、最後に補修されたのは平成12年と聞いています。市民から耐震性について問われることも多いのですが、いつ修繕をするのでしょうか。また、中央南北線を南進する場合、昭和記念公園に沿って敷設されている青梅線の本線と、その南側の引き込み線の踏み切りを立体化する必要があると聞きます。都への要請など南進・立体化の取り組み継続はしているのでしょうか。

答 市内の橋りょうは、平成23年に策定した「橋りょう長寿寿命化修繕計画」に基づき補修を行い、長寿寿命化を図っています。富士見高架橋は29年度に補修工事を予定しています。立・3・1・34号中央南北線の南進については、18年に都と市町が策定した「多摩地域における都市計画道路の整備方針(第3次事業計画)」で、27年までに優先的に整備すべき路線として位置づけられており、施工者である都に早期整備を引き続き要請します。

マイナンバー制度に懸念、実施延期を

認識し準備を進める
大沢 豊(緑たちかわ)



問 マイナンバー制度について、10月から通知カードの配付が始まります。今後、税の申告や給付申請などの際に個人番号の記入を求められることになり、書きたくない人や書くことが困難な人への対応を伺います。また、さきの法改正により個人番号の使用範囲が拡大し、個人の資産や健康などの情報が結び付けられるようになるという恐れがあります。プライバシーがなくなるこの個人番号制度に反対し、実施の延期を求めます。

答 税の申告などの際、個人番号の記入は法律上の義務となりますが、実際にはそれができない場面もあると考えます。住民基本台帳で確認できる場合など、制度を逸脱しない範囲で市民の負担とならない取り扱いをしていきたい。本制度は、国民への制度の理解の浸透や事業者等の準備などの課題、また個人情報保護に係る懸念があることを認識していますが、新たな国の社会基盤として導入する制度であるため、準備を進めます。